

# デジタル音源をアナログの心地よさに EARの技巧を費やした意欲作が登場

## EAR DACute

¥764,400 (Black仕様、近日発売予定) / USB DAC  
※¥837,900 (Chrome仕様) もラインアップ



TEXT  
井上千岳  
Chitake Inoue

### Profile

アナログサウンドの持つ音楽の響かせ方を熟知するティム・デ・パラヴィチーニが、その技術を費やした管球式DACが登場する。最大で192kHz/24bitのデジタル入力に対応。音声信号は2本のPCC88とトランスが連結された「チューブ式トランスカップリング」を備えた出力段を介して出力される。

### Specification

●DAコンバーター:24ビットマルチレベル $\Delta\Sigma$ コンバージョン ●入力:USB×1、S/PDIF×2、Optical×1 ●出力:RCA×1、XLR×1 ●使用真空管:PCC88×2、6DJ8×1 ●サイズ:435W×95H×320Dmm ●取り扱い:ヨシノトレーディング(株)

### REAR



デジタル入力にUSB×1、S/PDIF×2、Optical×1を備える

### ●本機の最大の強みは「管球式の確かな技術をデジタルソースに展開」

管球式のファンやスタジオリニアーズで絶大な信頼を誇るティム・デ・パラヴィチーニが、その技術をデジタルソースに展開した意欲作である。入力には同軸と光、USBの3種類を設け、光では96kHz、その他では192kHzのデータまで対応する。また出力はアンバランスとXLRバランスの双方を備え、ボリウムも搭載しているためパワーアンプへのダイレクト接続も可能である。

DA変換は24bit $\Delta\Sigma$ 方式。ティム自身の設計によるアナログ・フィルターを持ち、出力段は2本のPCC88をトランスへ連結したトランスカップリングで構成されている。

### ●本機の音に触れる 無理のない帯域で 充実した質感を備える

中域域にやや膨らんだ厚みがあつて、それが特有の温かみの基になつているようでもあるが、こもりはなく抜けはいい。輪郭が明瞭でにじみのない音調は管球式というよりトランスの音というべきで、芯が強く隅々まで骨格がしっかりしている。S/Nもよく、ボリウムを最大にしてもノイズは感じない。レンジを

が、いかにもタイムらしい出方といえる。ピアノにしてもタツツチの明確さと、ディテールのごく細かな部分にいたるまでのエネルギーが、生命力を感じさせる。アカベラでもそう、声の質感は女声にしては幾分筋肉質の線の強さに富んでいるが、どんな微細なところも明瞭でにじみや曖昧さのないことが表現を生かすこととしたものになっている。この細かなエネルギーの豊かさが身上といつていい。

オーケストラはもうひとつ底の方まで沈み切つてほしいとも思うが、やはり瞬発的な力強さが音楽をダイナミックにしている。ジャズでもウッドベースなどよく沈んで深いところまで明快だ。高域へはなだらかに減衰した印象だが、音の捉え方は極めて明晰で強靱である。マーカー・ミラーのベースは、深さが実に心地好い。経験を感じさせる再現性である。

### ●本機とお薦めの組み合わせ機器

USB接続でPCも試したが、若干レンジが狭まり立ち上がりも丸くなる印象だ。彫りの深さなども考えると、やはりCDを中心にすべきものかもしれない。高精度なCDトランスポートと組み合わせると、最適なシステムとなりそうだ。アキュフェーズのDP-900、もう少し手頃なところではノーススター・デザインModel 192CDT Mk2なども面白そうである。またデジタル出力つきCDプレーヤーを使うのも有効だ。